

## オンライン授業体験の開催結果

### 1 開催目的

広域な本道において、義務教育段階の学び直しを希望する方々への学びの機会提供手段の一つとして、ICTを活用した「オンライン授業」が有効と考えており、昨年実施した第1回目の施行により見えてきた課題を踏まえ、第2回目のオンライン授業を試行し、感想や意見をもとに検証を重ねていく

### 2 実施年月日

令和5年10月24日（火） 15:00～16:30

### 3 配信元

札幌市立星友館中学校

### 4 受信側

#### (1) 場 所

札幌会場：かでの2・7 10階1040会議室

釧路会場：釧路教育局会議室

#### (2) 参加者

札幌遠友塾 自主夜間中学

受講者8名・スタッフ13名 計21名

釧路自主夜間中学「くるかい」

受講者2名・スタッフ4名 計6名

### 5 授業日程・内容等

#### (1) 日程

時間	内 容
15:00	開 会
15:05	札幌市立星友館中学校の紹介 (星友館中学校 末原教頭)
15:20	オンライン授業体験
16:00	感想発表
15:20	アンケート
16:30	終 了

#### (2) 授業者

札幌市立星友館中学校 教諭 桑原 成子

※各受講会場に授業サポート役1名を配置

#### (3) 授業内容

国語「川柳」

#### (4) 感想発表

- ・授業者のテンポがよく、楽しい授業だった
- ・音声聞き取りにくいときがあった
- ・授業者が受講者個々の反応を十分把握できない状況で授業を行うため、スピードの調整が課題 など



(札幌会場の様子①)



(札幌会場の様子②)



(釧路会場の様子)

## 6 アンケート結果（札幌会場、釧路会場合わせた内容）

### (1) 受講者から（10名）

授業は楽しかったか：とてもおもしろかった 6名、おもしろかった 3名、  
あまりおもしろくなかった 1名

オンライン授業：またやってみいたい 8名、どちらかというをやってみいたい 2名

### (2) スタッフから（主に授業サポート面）

- ・ 受講会場にもホワイトボードを設置し、補助の板書をしていてよかった
- ・ 受講者が分からない時にすぐ対応できるスタッフが必要
- ・ 対面形式と異なるため、受講者の疑問や要望を授業者はどう伝えるかが課題
- ・ 受講者が、随時、質問できるようになると一層理解が深まると考える
- ・ サポート役がいてよかった。受講者に対応するスタッフとの連携を事前に図ることが大切 など

## オンライン授業関係者による意見交換会

開催日時：令和5年11月7日（火） 15:00～16:00

出席者：札幌市立星友館中学校、札幌遠友塾自主夜間中学、  
釧路自主夜間中学くるかい、北海道教育庁義務教育課

### 【昨年度実施を踏まえた改善点】

- ・ 受講者に一台ずつ端末を配付することをやめ、前方の大きなスクリーン画面で授業を映した
- ・ 各受講会場にホワイトボードを置き、発信会場と同じ板書を行った
- ・ 各受講会場にサポート役を1人配置した

### 1 音声、画像の見え方

- ・ 授業の画面を中央一つにして、大きく映し出したのがよかった
- ・ 授業の映像が、明るくなったり暗くなったりしたので、発信会場のカメラの明るさの設定を、オートではなくマニュアル設定にした方がよい
- ・ 授業者には、受信会場の個々の受講者の様子が画面上で小さく見えただけで、楽しくやれているのかなど雰囲気あまり伝わってこなかったが、サポート役の補助があったので助けられた
- ・ 常に同時双方向で音声のやりとりができるのが理想だが、現状の機材では限界があるので、全会場においてマイクのオン、オフで対応するなど工夫し、聞きやすさを優先する必要がある

### 2 授業サポートの在り方

- ・ 授業者とサポート役の事前の打合せは非常に重要
  - ・ 授業者の指示に対してどこまでサポート役が関わるのか、サポート役としての役割を明確にする必要があった
  - ・ オンライン授業は、基本的に一方通行になりがちなので、サポート役が受講者と授業者をつなぐ役割を担い、対話が生まれるよう配慮する必要がある
  - ・ 授業の状況が授業者にダイレクトに伝わらないので、サポート役や個々に対応できるスタッフの存在も必要
  - ・ サポート役が授業者の意図を理解した上で、全体の様子を把握し、受講者に伝えるといった授業の形は確立できた
- ※一人一台端末の活用による授業は、パソコン操作のスキルと、授業を受けるスキルの両方が高まっていないと難しい